

独立行政法人統計センター評価に関する有識者会議[議事要旨]

1 日 時:令和6年8月5日(月) 14:00～15:00

2 場 所:総務省第2庁舎 7階中会議室(オンライン併用)

3 出席者:(有識者)廣松毅(座長)、岩下真理、加藤久和、小林稔(オンライン:津谷典子)(敬称略)

(総務省統計局)岩佐統計局長、上田総務課長、小川統括補佐、小林課長補佐、事務局

(統計センター)稲垣経営審議役、木村総務部長、江原経営企画課長

(陪席:岩井課長代理、山崎係長)

4 議題: (1) 令和5年度に係る業務の実績に関する評価(案)について
(2) 総合評定(案)について
(3) その他

5 議事概要:

(1) 総務省統計局から令和5年度に係る業務の実績に関する主務大臣による評価(案)の説明が行われた。

(2) 質疑が行われた後、総務省統計局から総合評定(案)について、説明が行われ、項目別評定及び総合評定ともに妥当であるとの意見で一致した。

(3) 有識者からの主な意見等は以下のとおり。

○個々の評価については、非常に緻密になされており、妥当である。その上で、より正当性のあるものにするためには、評価点について、従来なぜ200点以上を基準として評価を1段階上げることとしたのかということを示せるとより良いのではないかな。

○「業務の効率化」について、昨今、様々な形で業務量が増えている中、単に要員投入量の減少を評価していることについて、もう少しフレキシブルに考えても良いのではないかな。

また、要員投入量をどのように設定しているのか説明できると、業務の効率化が行われているという評価の説得力が高まるのではないかな。

○「委託を受けて行う統計調査の実施」について、官公庁が実施する調査の回収率が低くなっているという状況がある中で、回収率の目標数値を上回り、中には100%という数値も出ていることは素晴らしいと思う。今後も持続することを期待する。

○「各府省支援業務」について、「統計基盤デジタル化推進支援室」を新たに設置するなど、統計センターが主体的となり、国全体としての統計リテラシーの底上げに努めたことは非常に有用な業務推進であり、高く評価する。今後、更なる各府省の統計リテラシー向上のためには、統計センターでもそれ相応の人材を確保・育成することが必要不可欠である。

また、年度途中に閣議決定された規制改革実施計画にも対応したことも評価したい。

○「ワーク・ライフ・バランスの推進」について、看護休暇の取得対象期間の拡大等、家庭と仕事の両立を努力している職員に配慮した取組を積極的に実施したことを評価する。様々な課題はあるが、福利厚生を拡充させることは非常に重要であり、今後も続けていた

だきたい。

- 「人材確保」について、採用の内定者数が 1.5 倍に増加したことはとても素晴らしい。
- 今年度から、従来の評価項目を統合する形で項目数を減らしたのは、評価の効率化という観点で非常に有意義だと思う。

以 上